

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第143号(2019. 2. 1)  
事務局 川西地区自主防災会

## 土砂災害と洪水でできた土地に暮らしていることを自覚しよう

香川大学創造工学部教授・学部長 長谷川修一

昨年の日本列島は、1月の草津白根山の噴火、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨災害、9月の台風21号と北海道胆振東部地震と次々と自然災害に襲われました。



日本列島に住む限り、地震、火山、土砂災害、洪水等の自然災害と無縁の土地はありません。どの地域でも甚大な自然災害の被災地になる可能性があります。そもそも、日本列島はプレート境界の地震・火山列島で、私たちは平らな土地なら洪水でできた土地に、傾斜地なら土砂災害によってできた土地に暮らしているのです。もし地面を掘って砂や砂利がでてきたら、昔洪水があった土地に住んでいる証です。

災害は自分たちがどのような土地に暮らしているかを教えてくれます。また、災害は私たちの誤解を厳しく戒めてくれます。河川に堤防やダムができたおかげで中小の洪水は確実に減り、多少の雨が降っても安心して暮らすことができます。しかし、ダムや堤防の想定を越えた大洪水の場合には、ダムや堤防では防ぎきれません。ダムや堤防は大洪水を防ぐのではなく、大洪水が発生する際に、避難に必要な時間稼ぐものであることを災害は教えてくれます。また場合によっては、堤防や砂防ダムも破壊されるほどの甚大な災害も発生します。

私たちは災害でできた土地に暮らさざるをえないとしたら、まず自分の住んでいる土地がどのようにしてできたのか、関心を持つ必要があるのではないのでしょうか。その手がかりは地形です。どのような地形に住んでいることを知っていれば、ハザードマップがなくてもどのような災害の危険性があるかある程度わかります。たとえば、谷の出口は土石流の常襲地です。また、川沿いの低い土地は旧河床で、河川の氾濫によって浸水しやすい土地です。

2004年台風23号による豪雨によって高松市鬼無地区は、本津川の氾濫と勝賀山からの土石流によって被害を受けました。本津川の氾濫は水田地帯となっている河川沿いの平らな低地（氾濫原）を浸水させました。また土石流は勝賀山中腹のみかん畑の谷から発生し、山麓の土石流扇状地を襲いました。土石流扇状地は緩やかに傾斜した砂礫質の地盤で世界的な松盆栽の産地になっています。

実は、鬼無の盆栽は、稲作に不適な土石流扇状地の荒地を逆手にとった地域の名産なのです。江戸時代初期に描かれた讃岐国絵図では鬼無地区を「笠井毛無」と表示されています。香川大学の田中健二名誉教授によれば、「毛」は作物のことで、扇状地で水はけがよすぎて米がとれないことから「毛無」と呼ばれるようになったとのこと。古い地名は災害の証です。

災害の度に、被災者はなぜ避難できなかったのか、なぜハザードマップや防災気象情報が伝わらなかったのか、行政からの情報提供方法が問題にされます。しかし、そもそも被災者が土砂災害や洪水でできた土地に住んでいるのを知らないから、防災情報に無関心なのではないでしょうか。また、堤防やダムがあるから災害が起きないと安心して暮らしているのではないのでしょうか。

住んでいる土地の成り立ちに関する無自覚（無知）が被災を大きくします。土地の成り立ちに関する無自覚（無知）は、大地に関する無関心に起因します。従って、大地の成り立ちに関する関心を高め、土地の成り立ちに関する無知を減らす必要があります。ジオパークは、大地の成り立ちから地域の強みと弱みを知り、災害列島日本で暮らすための究極の防災教育だけでなく、強みを逆手によって地域の強みに変えて、地域を元気にする活動です。人口減少が加速化する香川県では、ジオパークの視点から地域振興と防災・減災を進めることが必要だと思います。

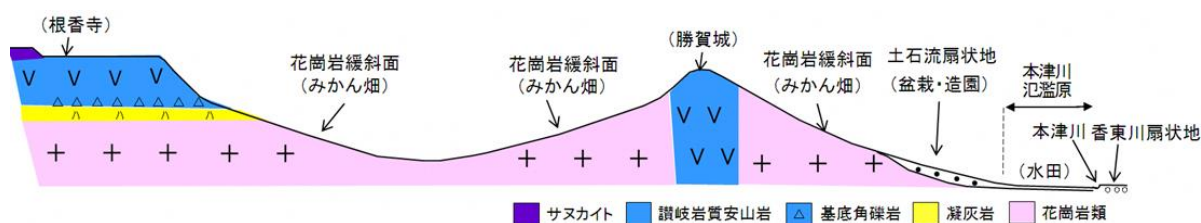


図1 鬼無地区の地形・地質と土地利用

大地の成り立ちによって地形が異なるため、災害が異なり、土地利用の違いが生まれます。

# 事務局だより

平成31年 2月

今月は「ざぶん賞 2018 四国地区表彰式」についてご報告します。

## 「ざぶん賞 2018 四国地区表彰式」を執り行なった

かがわ自主ぼうの役員によって、実行委員会が形成されている「ざぶん賞四国地区実行委員会」主催の「平成 30 年度ざぶん賞表彰式」を、香川県環境森林部長、香川県教育委員会理事、更に香川県環境保全公社理事長様のご出席を賜わり、平成 31 年 1 月 19 日（土）14 時より、e-とぴあ・かがわ（情報通信交流館）で開催しました。本年度香川県から 327 人の小中学生から応募があり、地区表彰として、3 名の児童生徒が選ばれました。



作品展示の様子

- 知事賞…東かがわ市立大内小学校 6 年 大山未結さん
- 教育長賞…丸亀市立西中学校 3 年 中野美羽さん
- 環境森林部長賞…高松市立古高松南小学校 4 年 内田梨香さん

更に全国表彰としては、次の児童生徒が選ばれました。

- ざぶん環境賞…東かがわ市立大内小学校 6 年 大山未結さん
- ざぶん文化賞…美馬市立脇町中学校 2 年 小田恵里さん
- ざぶん文化賞…新居浜市立角野中学校 1 年 齋藤茜さん
- 特別賞…高松市立古高松南小学校 4 年 内田梨音さん
- 特別賞…三豊市立詫間小学校 4 年 小林清流さん
- 特別賞…丸亀市立西中学校 3 年 中野美羽さん



作品展示の様子

- 特別賞…阿波市立阿波中学校 1 年 深田萌々香さん
- 特別賞…福山市立加茂中学校 3 年 森岡武嶺さん
- 特別賞…美馬市立脇町中学校 1 年 湯藤飛鳥さん
- 特別賞…松山市立南中学校 3 年 二宮響一さん

私（岩崎）は全国実行委員長 月尾嘉男氏の代りにプレゼンターとして全国表彰の賞状を贈らせていただきましたが、多くの児童の中から選ばれただけあって、どの生徒さんも「さわやか」で、目の表情が生々としていたのが、私自身に元気と情熱をいただいた感がしています。



かがわ自主ぼう役員を含めた実行委員皆様にこの誌面をお借りしてお礼申し上げます。



尚「ざぶん賞」の概要について、紹介させていただきます。

生命の源である「水」を主題に「生命」「環境」の大切さを理解し、自助、共助の精神で行動できる若人の育成を目指して創設された事業です。

- 小中学生を対象とし、創作文を公募します。
- 応募者全員に「ざぶん大使認定証」を発行します。
- 入選作品には、アーティストが装画などを加え、芸術作品に仕上げ、本人に贈呈します。



## 編集後記

今月の防災減災の輪は、香川大学創造工学部学部長 長谷川修一先生の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。